

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number :

04-094454

(43)Date of publication of application : 26.03.1992

(51)Int.Cl.

F02M 67/02
B62M 7/02
F02M 67/12

(21)Application number : 02-211174

(71)Applicant : YAMAHA MOTOR CO LTD

(22)Date of filing : 08.08.1990

(72)Inventor : MOCHIZUKI NORIHISA

KINOSHITA TOSHIO

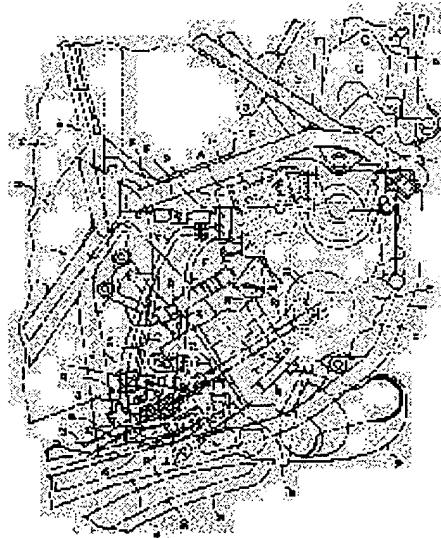
TANAKA TAKESHI

(54) FUEL INJECTING MOTORCYCLE

(57)Abstract:

PURPOSE: To facilitate maintenance with a fuel injecting engine mountable without increasing total height of a vehicle by mounting the engine, having a cylinder tilted to a car body front side, to provide a combustion chamber fuel injection device in this cylinder, and setting a valve shaft of this device almost in parallel to a cylinder axis.

CONSTITUTION: In a fuel injecting engine 16 mounted to a motorcycle, a cylinder 18 of this engine is tilted to a car body front side and provided with a combustion chamber fuel injection device 24, and the engine can be mounted without increasing total height of a vehicle by setting a valve shaft L1 of the device 24 almost in parallel to a cylinder axis L2. A combustion chamber fuel injector 26 is mounted at a predetermined angle relating to the valve shaft L1 of the combustion chamber fuel injection device 24 and further positioned in a range of a rear side from a side of the combustion chamber fuel injection device 24, so that air bleed from fuel can be easily performed by placing the combustion chamber fuel injector 26 in a rising condition.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

⑪ 公開特許公報 (A) 平4-94454

⑫ Int. Cl. 5

F 02 M 67/02
B 62 M 7/02
F 02 M 67/12

識別記号

序内整理番号

D

8514-3C
9144-3D
8514-3G

⑬ 公開 平成4年(1992)3月26日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全5頁)

⑭ 発明の名称 燃料噴射式自動二輪車

⑮ 特願 平2-211174

⑯ 出願 平2(1990)8月8日

⑰ 発明者 望月範久 静岡県磐田市新貝2500番地 ヤマハ発動機株式会社内
 ⑱ 発明者 木下利男 静岡県磐田市新貝2500番地 ヤマハ発動機株式会社内
 ⑲ 発明者 田中毅 静岡県磐田市新貝2500番地 ヤマハ発動機株式会社内
 ⑳ 出願人 ヤマハ発動機株式会社 静岡県磐田市新貝2500番地
 ㉑ 代理人 弁理士 鶴若俊雄

明 詳 告

1. 発明の名称

燃料噴射式自動二輪車

2. 特許請求の範囲

本体前側へ傾斜した気筒を有するエンジンを搭載し、この気筒に空気と燃料とを燃焼室内へ噴射する燃焼室燃料噴射装置を備え、この燃焼室燃料噴射装置の各噴射シリンダ頭と略平行に設置され、さらに前記燃焼室燃料噴射装置の弁軸に対して所定の角度をもって燃焼室燃料噴射インジェクタが取付けられ、かつこの燃焼室燃料噴射インジェクタは前記燃焼室燃料噴射装置の側方から後側の範囲内に位置することを特徴とする燃料噴射式自動二輪車。

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

この発明は、燃料噴射式エンジンを搭載した燃料噴射式自動二輪車に関するものである。

〔従来の技術〕

例えば車両用エンジンにおいては、燃料噴射の

精度を向上させ、或いは排気ガスの清浄化、低燃費等の観点から燃料噴射装置として、従来の気化器に代えて燃料噴射装置を採用するものがある。

このような燃料噴射式エンジンを自動二輪車に搭載したものには、例えば特開平1-153463号及び同1-170758号公報に開示されるように、エンジンの吸気管に燃料噴射インジェクタを設け、この燃料噴射インジェクタから燃料を吸気管に噴射するものがある。

〔発明が解決しようとする課題〕

ところで、例えば燃焼室内に空気と燃料とを噴射する燃焼室燃料噴射装置をエンジンの気筒に設け、さらにこの燃焼室燃料噴射装置に燃料を噴射する燃焼室燃料噴射インジェクタを設け、エンジンの運転状態に応じて燃焼室燃料噴射装置を制御する場合がある。しかし、このような燃料噴射式エンジンを自動二輪車に搭載する場合には、燃焼室燃料噴射インジェクタを有する燃料噴射装置を気筒に取付けた分、エンジン会心が高くなり、特に自動二輪車の車両会心が高くなってしまう。

従って、気筒に燃料噴射装置を備える燃料噴射式エンジンを、特に配置スペースが制限される自動二輪車に搭載する場合には、車両重量が高くならないように配慮すると共に、これらのメンテナンスの作業性をも考慮した構造にする必要がある。

この発明はかかる点に備みなされたもので、車両重量が高くなることなく燃料噴射式エンジンを搭載でき、しかもメンテナンスが容易である燃料噴射式自動二輪車を提供することを目的としている。

【発明を解決するための手段】

前部装置を解決するため、この燃料噴射式自動二輪車の発明は、車体前側へ傾斜した気筒を有するエンジンを搭載し、この気筒に空気と燃料とを燃焼室内へ噴射する燃焼室燃料噴射装置を備え、この燃焼室燃料噴射装置の弁軸はシリンダ軸と略平行に設定され、さらに前記燃焼室燃料噴射装置の弁軸に対して所定の角度をもって燃焼室燃料噴射装置インジェクタが取付けられ、かつこの燃焼室燃料噴射装置インジェクタが取付けられ、かつこの燃焼室燃料噴射装置

詳細に説明する。

第1図は燃料噴射式自動二輪車の側面図、第2図は燃料噴射式エンジンの側面図である。

自動二輪車の主体1を構成するヘッドパイプ2にはフロントフォーク3が旋回可能に支承され、このフロントフォーク3には前輪4が支承されている。ヘッドパイプ2の後側にはメインフレーム5及びダウンチューブ6が接続され、このメインフレーム5の後方には左右一対のシートピラーチューブ7が接続され、またダウンチューブ6にも同様に左右一対の支持フレーム8が接続され、この支持フレーム8及びシートピラーチューブ7の後端部は接続されている。メインフレーム5の後端から後方へ左右一対のシートレール9が延びており、このシートレール9はバックステー10でシートピラーチューブ7に支承されている。シートピラーチューブ7に設けたブラケット11にはリヤアーム12が軸支され、このリヤアーム12の後端部に後輪13が支承されている。メインフレーム5には燃料タンク14が跨ぐようにして取付けられ、この燃料タンク14の後方をシート15が覆っており、このシート15はシートレール9に取付けられている。

燃料噴射装置は前記燃焼室燃料噴射装置の側方から後側の範囲内に位置することを特徴としている。

【作用】

この作用では、自動二輪車に搭載したエンジンの気筒が車体前側へ傾斜しており、この気筒に空気と燃料とを燃焼室内へ噴射する燃焼室燃料噴射装置を備え、その弁軸をシリンダ軸と略平行に設定することで、車両重量を高くすることなくエンジンを搭載することができる。

また、燃焼室燃料噴射装置の弁軸に対して所定の角度をもって燃焼室燃料噴射インジェクタを取付け、この燃焼室燃料噴射インジェクタが燃焼室燃料噴射装置の側方から後側の範囲内に位置しており、これにより燃焼室燃料噴射インジェクタが独立した状態になり、燃料からのニア放電を簡単に行なうことができ、しかもエンジン上方からメンテナンスを容易に行なうことができる。

【実施例】

以下、この発明の実施例を第1図面に基づいて

詳しく述べる。

第1図は燃料噴射式自動二輪車の側面図、第2図は燃料噴射式エンジンの側面図である。

自動二輪車の主体1を構成するヘッドパイプ2にはフロントフォーク3が旋回可能に支承され、このフロントフォーク3には前輪4が支承されている。ヘッドパイプ2の後側にはメインフレーム5及びダウンチューブ6が接続され、このメインフレーム5の後方には左右一対のシートピラーチューブ7が接続され、またダウンチューブ6にも同様に左右一対の支持フレーム8が接続され、この支持フレーム8及びシートピラーチューブ7の後端部は接続されている。メインフレーム5の後端から後方へ左右一対のシートレール9が延びており、このシートレール9はバックステー10でシートピラーチューブ7に支承されている。シートピラーチューブ7に設けたブラケット11にはリヤアーム12が軸支され、このリヤアーム12の後端部に後輪13が支承されている。メインフレーム5には燃料タンク14が跨ぐようにして取付けられ、この燃料タンク14の後方をシート15が覆っており、このシート15はシートレール9に取付けられている。

燃料噴射装置は前記燃焼室燃料噴射装置の側方から後側の範囲内に位置することを特徴としている。

れ、さらに燃焼室燃料噴射装置24には、その弁駆し1に沿して所定の角度をもって燃焼室燃料噴射インジェクタ26が取付けられ、この燃焼室燃料噴射インジェクタ26は燃焼室燃料噴射装置24の側方から後側の範囲内に位置している。

このように、自動二輪車に搭載した燃料噴射式エンジン16は、その気筒18が車体前面へ傾斜しており、この気筒18に燃焼室燃料噴射装置24を備え、その弁駆し1をシリング駆し2と駆平替に配置することと、半周高が高くすることなく搭載することができる。また、この気筒18に備えられた燃焼室燃料噴射装置24は、ダウンチューブ6に取付けられた図示しないラジエータ50やフロントフォーク3に取付けられたりヤブニング51に干渉することができないようになっている。

また、燃焼室燃料噴射装置24の弁駆し1に対して所定の角度をもって燃焼室燃料噴射インジェクタ26を取付けられており、しかも燃焼室燃料噴射インジェクタ26が燃焼室燃料噴射装置24の側

板状の構体により駆動される。

空気ポンプ31は配管34を介して燃焼室燃料噴射装置24に空気を送る。この燃焼室燃料噴射装置24から配管35を介して空気がレギュレータ36へ送られて、さらに配管37で大気へ連通している。なお、この配管37は排気管19へ接続して、空気を含まれる燃料を燃焼させてもよく、また燃料タンク14内の空気を大気へ開放する図示しない配管へ設けられたキャニスターへ接続して、空気を含まれる燃料を吸着するようにしてもよい。

燃料ポンプ32の入力側には燃料フィルタ38が備えられ、この燃料フィルタ38は配管39を介して燃料タンク14に接続されている。燃料タンク14は燃料噴射式エンジン16の上方に位置している。燃料ポンプ32の出力側は配管40を介して、吸気管燃料噴射インジェクタ26が接続され、さらにこの吸気管燃料噴射インジェクタ26は配管41を介して燃焼室燃料噴射インジェクタ26が接続される。さらに、燃焼室燃料噴射イン

方から軸面の範囲内に位置することで、燃焼室燃料噴射インジェクタ26が起立した状態になり、燃料からのエア抜きを簡単に行なうことができる。

また、クランクケース17には吸気管27が接続され、この吸気管27にはリードバルブ28が設けられ、さらにこのリードバルブ28の上流部には吸気管27に燃料を噴射する吸気管燃料噴射インジェクタ29が設けられ、この吸気管燃料噴射インジェクタ29は気筒18に近接して、その後方に位置している。

吸気管27にはエアクリーナ30から空気が図示しないスロットル弁の作動で供給される。エアクリーナ30は燃料噴射式エンジン1の後方位置で、車体1のシートピラチューブ2、シートレール9及びパックステー10に囲まれる部分に配置されている。

クランクケース17には燃料ポンプ31及び燃料ポンプ32が設けられ、それぞれクランク軸21の動力がギヤ複数33を介して伝達され、この

ジエクタ26には配管42を介して燃料圧力を一定に調整するレギュレータ36に接続され、さらに配管43を介して燃料タンク14の順序に配管されている。

燃焼室燃料噴射装置24と吸気管燃料噴射インジェクタ29は図示しないコントローラで各センサから得られる情報を基づき、運転状態に応じて制御される。

この燃焼室燃料噴射装置24の燃焼室燃料噴射インジェクタ26と吸気管燃料噴射インジェクタ29とが近接して配置され、しかも燃料タンク14の下方で、かつ燃料噴射式エンジン16の上方へ配管されている。従って、燃料供給の配管を簡略化することができ、しかも配管が容易になつてエンジン周りのレイアウトが簡素化される。

また、燃料供給の配管、燃焼室噴射装置24、燃焼室燃料噴射インジェクタ26及び吸気管燃料噴射インジェクタ29、さらには燃料ポンプ32や空気ポンプ31等が燃料噴射式エンジン16の上側に配置されているため、燃料タンク14をメ

インフレームから取外すだけで、その上方が開放される。これにより、これらのメンテナンスを容易に行なうことができる。

〔発明の効果〕

前記のように、この整明は、自動二輪車に搭載したエンジンの気筒が車体前面へ傾斜し、この気筒に空気と燃料とを燃焼室内へ噴射する燃焼室燃料噴射装置を備え、その舟軸をシリンダ軸と略平行に設定したから、自動二輪車のように配置スペースが制限される場合でも、車両全高が高くすることなく、気筒に燃焼室燃料噴射装置を備える燃料噴射式エンジンを搭載することができる。

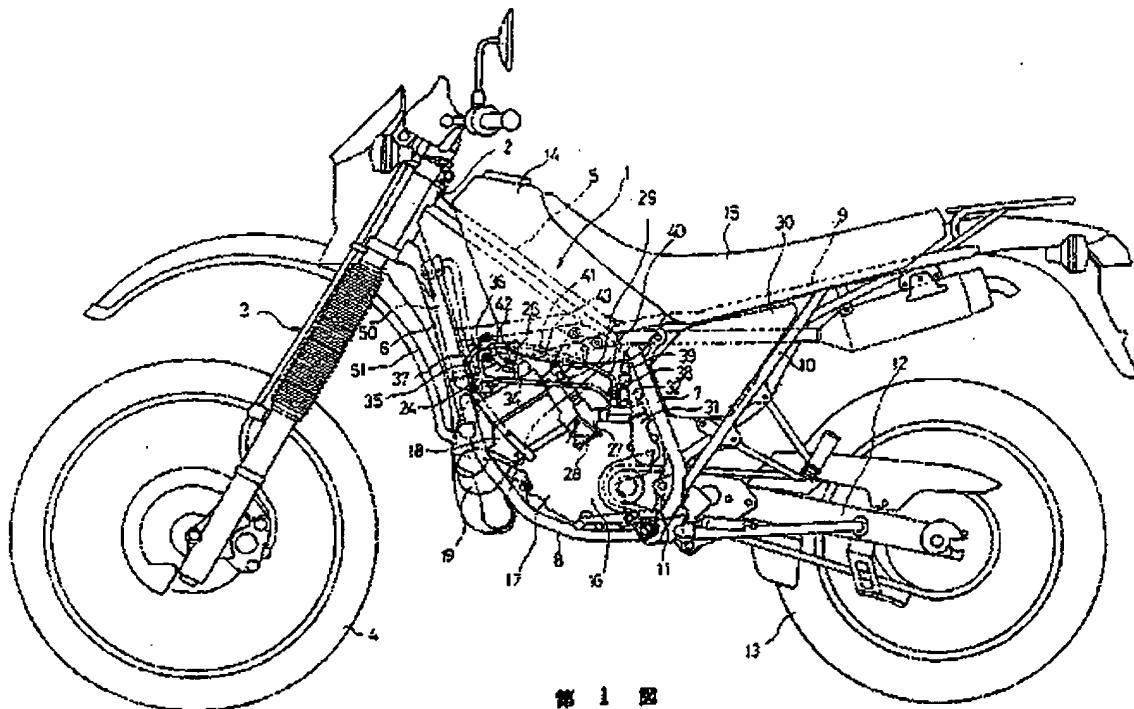
また、燃焼室燃焼噴射装置の先端に対して所定の角度をもって燃焼室燃料噴射インジェクタを取り付け、この燃焼室燃料噴射インジェクタが燃焼室燃料噴射装置の側方から後面の範囲内に位置をとるから、燃焼室燃料噴射インジェクタが起立した状態になり、燃料からのエア抜きを簡単に行なうことができ、しかもエンジン上方からメンテナンスを容易に行なうことができる。

4. 四面の機車を説明

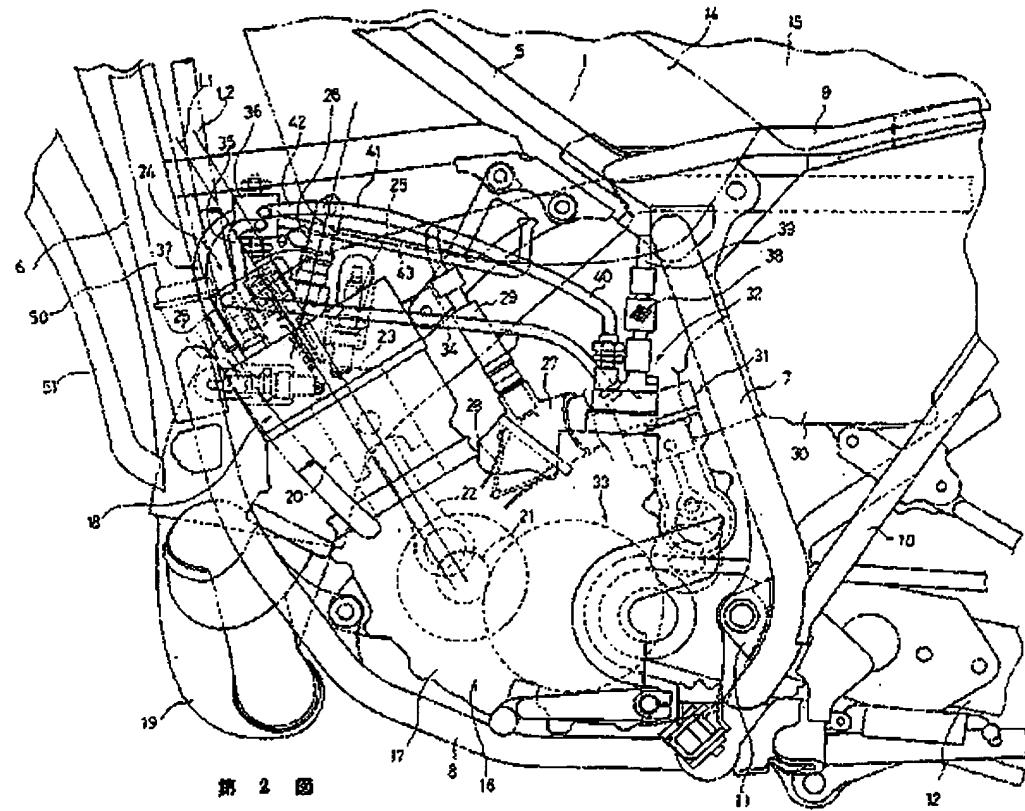
第1図は燃料噴射式自動二輪車の側面図、第2図は燃料噴射式エンジンの側面図である。

図中符号 1-4 は燃料タンク、 1-6 は燃料噴射式エンジン、 1-8 は気筒、 2-3 は燃焼室、 2-4 は燃焼室燃料噴射装置、 2-5 は燃焼室燃料噴射インジェクタ、 3-7 は吸気管、 2-9 は吸気管燃料噴射インジェクタ、 3-1 は空気ポンプ、 3-2 は燃料ポンプである。

特許出願人 ヤマハ発動機株式会社
代理人並延士 酒井俊雄



第一題



第 2 図